

な若者もあった。

正月三日には宮参り、若水くみ、御年始などのこともあるが、重要な行事は、小正月ともよぶ十五日を中心として行なわれることは、注意する必要がある。昔は四季の節は意識しながらも、太陽から折目を見とることは容易でなく、東洋では特に太陰月が普及していたように、月の満ち欠けをみて日月の移りを知ることが多かった。一年の折目はこの小正月にあったのではないかと、重なる行事をみて考察している人もある。

貞享二年の風俗帳などをみても、元旦の若餅、これは朝搗く餅のことであるが、近年元旦に餅を搗く家は少な



歳徳神の神影の神棚の正月飾り



小正月のさいのかみ

る。年があけると正月であるが、ラジオ、テレビなどの普及によって、除夜に歌合戦をみたり、除夜の鐘をラジオを通して聞いたりするようになつて、雪道を朝早く氏神参りすることも少なくなった。もとは元朝参りとは、若者、やや育った子供たちのはりのある行事でもあったようである。東山の羽黒山、高田の伊佐須美神社塔寺の八幡様、時には柳津の虚空蔵様まで雪深い道を、足をのばす健脚